学校番号	320

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	（学）基礎数学	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書							
副教材等	新版　スタディ数学Ⅰ＋A　（第一学習社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では問題を解くときに、「 問題を理解する→解法の方針を立てる→解いてみる」の過程を意識しましょう。
・授業を大切にしてください。すべての基礎・基本は授業にあります。それらが定着することによって新しい内容を理解し、問題が解けるようになります。
・問題を解くときは途中式や考え方を書く習慣を身に付けましょう。わからないところは教科書や授業ノートを見返したり、質問をして解決しましょう。
・問題集の問題をまず自分で解いてみましょう。また、各自答え合わせをしてください。答え合わせは、自分がどこでつまずいたかを知るための大切なものです。
・家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。最後まであきらめずに取り組みましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
　数学Ⅰ・A における基本的な概念・原理・法則などを理解する。
【思考力、判断力、表現力等】
　数学Ⅰ・A の融合問題に取り組むことで知識・技能を活用した思考力・表現力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
　数学的な見方や考え方を用いて数学的に表現し処理する力や推論の方法を身に着ける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	式の計算，2 次関数，三角比，データの分析において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。また場合の数と確率、図形の性質、整数の性質における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、場合の数と確率、図形の性質、整数の性質における数学的な見方や考え方を身に付けている。	数学Ⅰ・A のそれぞれの単元において，考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	図形と計量	・三角比 ・図形の計量	a: 三角比の定義が理解できている。相互関係，正弦定理，余弦定理を使うことができる。 b: 図形の長さ，角度，面積等を計量するときに三角比を利用できる。 c: 身の回りの平面図形，立体に三角比をの性質を当てはめてみることに興味を示し、積極的に考察しようとしている。	提出物 定期考査 観察等	提出物 定期考査 観察等	提出物 定期考査 観察等
	図形の性質	・三角形の性質	a: 適切な補助線が引けたり、三角形の外心、内心、重心の性質を利用したりして、線分の長さや角の大きさを求めることができる。線分の内分・外分などの基本事項を理解し、三角形の外心、内心、重心の定義、性質を理解している。 b: 図形の性質を証明するのに、三角形の角の二等分線を用いて論理的に考察できる。 c: 三角形の外心、内心、重心に関する性質に興味を示し、積極的に考察しようとしている。	提出物 定期考査 観察等	提出物 定期考査 観察等	提出物 定期考査 観察等
		・チェバの定理，メネラウスの定理	a: チェバの定理・メネラウスの定理を理解している。 b: チェバの定理・メネラウスの定理を三角形に現れる線分比や図形の面積比を求める問題に活用できる。 c: チェバの定理・メネラウスの定理に興味を示し、考察に活用しようとしている。	提出物 定期考査 観察等	提出物 定期考査 観察等	提出物 観察等

1学期	図形の性質	・円に内接する四角形 ・円と直線	a: 円に内接する四角形の定理を用いて角度を求めたり、接弦定理、方べきの定理を用いて角度や辺の長さを求めることができる。円周角の定理とその逆、四角形が円に内接するための条件、円の接線と弦の作る角の性質、方べきの定理とその逆を理解している。 b: 円と直線を動的にとらえて、それらの位置関係を考察することができる。 c: 円周角の定理、円に内接する四角形の性質、方べきの定理などに関心をもち、事象の考察に活用しようとしている。	提出物 定期考査 観察等	提出物 定期考査 観察等	提出物 観察等
		・2つの円	a: 共通接線の定義を理解し二つの円の接点間の距離を求めることができる。 b: ２つの円の位置関係を動的な面から観察することができる。 c: ２つの円の位置関係と中心間の距離と半径の関係を考察しようとする。	提出物 定期考査 観察等	提出物 定期考査 観察等	提出物 観察等
	数と式	・式の展開と因数分解	a: 整式の整理，基本的な展開，因数分解ができる。乗法公式を覚え，活用しようとする。 b: 乗法公式を繰り返し使い，複雑な展開，因数分解ができる。 c: 整式に応じて正しく乗法公式が使え興味・関心をもつ。	提出物 定期考査 観察等	提出物 定期考査 観察等	提出物 観察等
		・実数	a: √の意味が理解でき，基本的な計算ができる。分母の有理化ができる。循環小数，絶対値の概念が理解できる。 b: √を含む式の対称式，整数部分・小数部分等の応用問題が扱える。 c: 実数の性質に興味・関心をもつ。	提出物 定期考査 観察等	提出物 定期考査 観察等	提出物 観察等

2学期	2次関数	・2 次関数とそのグラフ	a: $y=a(x-p)^2+q$ の式が理解でき、2 次関数のグラフの概形を描くことができる。平方完成ができる。基本的な 2 次関数の決定や，最大最小の問題ができる。 b: 式や定義域に文字を含む 2 次関数の扱いができる。 c: 2 次関数のグラフ，性質に興味・関心をもつ。	提出物 定期考査 観察等	提出物 定期考査 観察等	提出物 観察等
		・2 次方程式、不等式	a: 因数分解，解の公式を用いて 2 次方程式が解ける。2 次不等式の解が出せる。 b: 2 次関数のグラフと 2 次方程式，不等式の関係性が理解できる。文章題を方程式，不等式を用いて式に変換でき，解を求めることができる。 c: 2 次関数のグラフと方程式不等式とのリンクに興味・関心をもつ。	提出物 定期考査 観察等	提出物 定期考査 観察等	提出物 観察等
	データの分析	・データの分析	a: データの整理，代表値，四分位数、箱ひげ図が理解できる。 b: 標準偏差，相関係数が求められる。図を見てデータの特徴が考察できる。 c: 学習したことを踏まえ，日常生活に現れるデータの特徴を考察することに興味・関心をもつ。	提出物 定期考査 観察等	提出物 定期考査 観察等	提出物 観察等
	場合の数・確率	・数え上げの原則 ・順列組合わせ ・確率の基本性質と色々な確率	a: 場合の数を順列、円順列、重複順列に帰着させて求めることができ、順列、円順列、組み合わせなどの公式を活用できる順列、組み合わせの条件に応じて条件の処理の仕方を理解している。 b: 条件がつく順列、組み合わせの見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。 c: 事象に応じて順列、組み合わせの考え方が使えること順列、組み合わせの違いに興味・関心をもつ。	提出物 定期考査 観察等	提出物 定期考査 観察等	提出物 観察等

2学期	確率と期待値	独立な試行と確率 条件付き確率 期待値	a: 複雑な独立試行の確率や条件付き確率、反復試行の確率を公式や加法定理、乗法定理を用いて求めることができる。独立な試行の意味を理解している。また、独立な試行の確率、反復試行の確率、条件付き確率の基礎的な知識を身につけている。期待値の考え方を理解し様々な事象の期待値を求めることができる。 b: 反復試行の確率を用いて、具体的な問題を考察することができる。複雑な条件付き確率や期待値を順序だてて考察することができる。 c: 条件付き確率や確率の乗法定理の考えに興味・関心をもち、それらを活用しようとしている。日常生活の中で様々な事象について確率や期待値の考え方を応用し活用しようとしている。	提出物 定期考査 観察等	提出物 定期考査 観察等	提出物 観察等
3学期	整数の性質	・約数と倍数	a: ある整数aの倍数はakと表せることを使って、簡単な命題を証明することができる。約数・倍数、3の倍数・9の倍数の判定方法、自然数の正の約数やその個数求めるのに素因数分解が利用できることを理解している。 b: 平方数になる条件を、素因数分解の結果から考察することができる。 c: 約数・倍数に興味・関心をもって意欲的に授業に取り組んでいる。	提出物 定期考査 観察等	提出物 定期考査 観察等	提出物 観察等
		・最大公約数・最小公倍数	a: :互いに素な整数の性質を利用して、簡単な命題を証明することができる。素因数分解を利用して最大公約数・最小公倍数を求める方法を理解している。 b: 2数の最小公倍数は2数の素因数のすべてを因数とするということを理解し、それを利用して問題を考察できる。 c: 最大公約数・最小公倍数に興味・関心をもって意欲的に授業に取り組んでいる。	提出物 定期考査 観察等	提出物 定期考査 観察等	提出物 観察等

3学期	整数の性質	・整数の割り算と商・余り	a: 整数をある正の整数で割った余りで分類して、簡単な整数の性質を証明することができる。偶数、奇数の文字による表し方を理解し、それを利用して簡単な整数の性質を証明することができる。 b: 整数aを正の整数bで割る割り算を、aとbの間に成り立つ等式としてとらえることができる。 c: 整数の割り算・商・余りの新しい概念に興味・関心をもって授業に取り組んでいる。	提出物 定期考査 観察等	提出物 定期考査 観察等	提出物 観察等
		・ユークリッドの互除法	a: 互除法の原理を理解し、互助法を用いて 2 数の最大公約数を求めることができる。 b: 互助法を利用して、a, bが互いに素であるとき、$ax+by=c$を満たす整数x, yの組を求めることができる。 c: 互除法の計算から最大公約数を表す式が導かれることを具体例から考察し、一般にも適用できることに気付く。	提出物 定期考査 観察等	提出物 定期考査 観察等	提出物 観察等

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度